

## モデルプログラム M-2 現場における実践 －研究授業の参観と協議会 「JSLカリキュラム」に基づく授業の場合－

|   |  |
|---|--|
| ねらい   | JSLカリキュラムに基づく日本語教室を参観し、自身の授業を内省し、改善について検討する。   |
| 対象  | <input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生<br><input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/><br><input type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員   |
| 日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験   | <input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上   |
| 高めたい資質・能力   | <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解）<br><input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養）<br><input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現）<br><input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長） |
| 主な内容  | M 現場における実践      I 日本語指導の計画と実施  |
| 活動形態  | <input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input checked="" type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習   |
| 時間  | 60分  |
| 流れ（・項目）   | 活動（◇活動の工夫）   |
| 1. JSLカリキュラムの概要と有効性を確認する。（5分）<br>・内容と日本語の統合学習「JSLカリキュラム」(I)<br>・学習参加のための支援(J)<br>・「主体的・対話的で深い学び」(H) | 1. JSLカリキュラムの導入の意味について、次の点を確認する。<br>・来日後のできるだけ早い段階から、日本語で教科等の学習に参加する力「学ぶ力」をつけるためのカリキュラムである。<br>・探究活動への参加を通して、日本語で思考する力（学習言語能力）の育成を目的とする。<br>・教科と日本語、両方の目標があり、その達成のために活動と、その活動に参加するための日本語表現の明確化が重要である。<br>・教室と同様の授業展開（学び合えるグループでの実施が理想）を経験させる。<br>・視覚情報や操作・体験などにより、理解や表現を支援する。<br>・一人一人に応じて情意面の配慮をすることにより、リラックスして質問したり、発言したりできる。  |
| 2. 授業を参観する。（45分）<br>・現場での実践 (M)<br>・実践記録の作成と振り返り (M)  | 2. 次の視点で参観する（授業から学べる点をメモする）。<br>・子どもの日本語と教科の力はどれぐらいか。内容は適しているか。<br>・教科と日本語の目標達成に向け、活動や支援にどのような工夫をしているか。また、効果的であったか。<br>・探究活動での子どもはどのように考え、何を発話していたか。<br>・教師の指示や問いには、どのような日本語の表現が使われているか。<br>・この日の授業で学んだことを、どのように言語化してまとめていたか。<br>・子どもはどこでつまづいていたか。教師の対応はどうであったか。<br>◇子どもが何をどう学んでいるかを、具体的な姿として捉え、メモする。  |
| 3. 授業を振り返る。（7分）<br>・日本語教育に関わる専門性 (N)  | 3. 参観した授業を振り返り、自身が今後どう取り組むかを考える。<br>1) メモを付箋に書く（授業を参観しながら）。<br>2) グループで1)のメモの中で、特に参考になった点や疑問点を話す。  |
| 4. 在籍学級との連携を考える。（3分）<br>・教師・支援員間の連携 (C)   | 4. 取り出し支援と在籍学級の学びをつなげるために、在籍学級担任との連携の必要性を再確認する。  |
| 備考  | ・学習指導案については事前に配布する、子どもの実態についての情報を当日配布する（回収）などして、授業意図や対象児童を理解した上で参観できるようにする。<br>・実際の授業を見ることができなければ、授業のビデオを準備し、それを見ながらディスカッションをする。<br>・できれば、90分の授業とし、授業参観時のメモをもとに、「子どもたちの実態、   |

|  |  |
|--|--|
|  | 活動の工夫、教材の工夫、支援の工夫」など、授業から学べた点についてグループでの話し合いの時間を20分程度確保し、最後に全体で共有する時間を設けたい。 |
|--|--|